

令和3年12月17日
東北地方整備局

閑上地区かわまちづくりが

令和3年度「かわまち大賞」に決定

～令和3年12月23日（木） 国土交通本省で表彰式を開催～

『かわまち大賞』は、全国で進められている「かわまちづくり」の中から、他の模範となる先進的な取組を、国土交通大臣が表彰するものです。

4回目となる今年度は、有識者による審査委員会で審査を経て、『閑上地区かわまちづくり（名取川水系名取川）』の取組が大賞として決定されました。※全国では2件が決定決定された団体に対し、国土交通大臣より表彰式が下記のとおり行われます。

1. 受賞箇所（閑上地区かわまちづくりの取組及び評価は、「別紙①」をご覧ください。）

水系名	河川名	かわまちづくり名称	推進主体	関係自治体
名取川	名取川	閑上地区かわまちづくり	名取市水辺を活かしたまちづくり検討会	宮城県名取市

2. 表彰式

1) 日時 令和3年12月23日（木）13時30分～14時00分頃

2) 場所 国土交通省 国土交通大臣室（予定）
（東京都千代田区霞ヶ関2-1-3 中央合同庁舎3号館）

3. その他

- 表彰式の撮影・取材を希望される報道関係者の方に限り、12月22日（水）12時までに、以下事前登録先に、社名・役職・氏名・連絡先（電話&E-mail）を登録ください。

【事前登録先】：E-mail：hqt-kawayorozu@gxb.mlit.go.jp

- 写真撮影にあたっては、進行の妨げにならないようお願いいたします。
- 公務等の都合により、開始時間・場所等が変更となる可能性があります。
- 新型コロナウイルス感染症対策のため、各社1名とし、マスクをご着用いただくとともに、風邪等の症状がある場合には参加を控えていただきますようお願いいたします。なお、腕章等を見える位置につけて下さい。
- 当日は、13時15分に4階エレベーターホールにお集まりください。

添付資料

別紙① 受賞箇所の取組及び評価

別紙② 審査委員会開催概要

参考① かわまち大賞の概要

参考② かわまちづくり支援制度の概要

<発表記者会：宮城県政記者会、東北電力記者会、東北専門記者会>

【かわまち大賞及び授与式に関する問い合わせ先】

国土交通省水管理・国土保全局 河川環境課

課長補佐 熊木（内線35-432） 係長 横山（内線35-445）

【電話】03-5253-8111、03-5253-8447（夜間） 【FAX】03-5253-1603

【閑上地区かわまちづくりに関する問い合わせ先】

国土交通省 東北地方整備局 河川環境課

課長 八木（内線3651） 建設専門官 石井（内線3652）

【電話】022-225-2171



ゆりあげちく

閑上地区かわまちづくり

【題名】 名取川とともに復興し、新たな賑わいを生み出したまち 閑上
 【河川】 名取川水系・名取川（一級河川）



かわまちづくりの特長

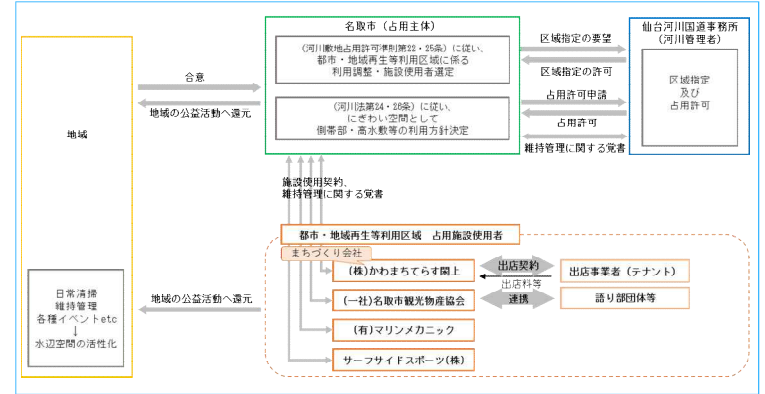
- ・閑上地区は、河川堤防と同じ高さに整備した側帯上に、被災事業者が中心となって設立したまちづくり会社が商業施設を建設・運営しており、地域の賑わいの拠点となっている。
- ・まちづくり会社が主体となり、定期的にイベントを開催するとともに、行政以外にも様々な関係主体が関わって情報を共有し、WEBやSNS等で情報を発信している。
- ・都市・地域再生等利用区域を指定し、商業施設とともに、舟運事業、河川防災ステーションや震災復興伝承事業館の整備等を実施し、官民連携で賑わい創出・防災性向上に取り組む。

評価のポイント

- ・閑上地区は、震災で甚大な被害を受けたが、かわまちづくりの取組などにより居住人口が増え、商業施設の整備・運営により主体性を持って地域を盛り上げようとしている点は高く評価できる。また、社会実験中の舟運事業が定着すれば、新たな観光事業の一つの機運になる。
- ・河川とまち・運河・港が連携し、復興事業の中で拠点整備と河川整備を上手く組み合わせた点は高く評価できる。また、この地区を地域の拠点として育てて行こうという発想は災害復興・継承の観点から高く評価できる。

体制

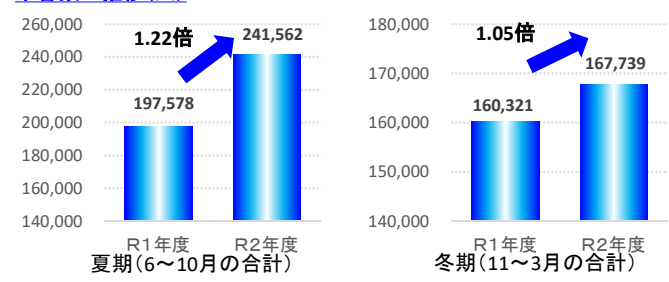
・推進主体：名取市水辺を活かしたまちづくり検討会



管理運営体制図

効果

来客数の推移(人)



「かわまちてらす閑上」の来客者数の推移

問合せ先：名取市商工観光課

TEL：022-724-7149 E-Mail：syousui@city.natori.miyagi.jp

令和3年度「かわまち大賞」 審査委員会開催概要

○開催日時: 令和3年11月4日

○開催場所: 国土交通本省会議室

1. 応募箇所

- 「かわまちづくり」支援制度には、現在、244件が登録されており、その中から今年度は、8件の応募がありました。

2. 審査委員会

- 審査委員会は、河川に造詣が深い、建築・都市史、観光、地域政策の分野の有識者4名で行われました。

	氏名	所 属
委員長	陣内 秀信	法政大学 特任教授
委員	楓 千里	國學院大學 研究開発推進機構 教授
委員	佐々木 葉	早稲田大学 創造理工学部社会環境工学科 教授
委員	中庭 光彦	多摩大学 経営情報学部 事業構想学科 教授

(五十音順、敬称略)

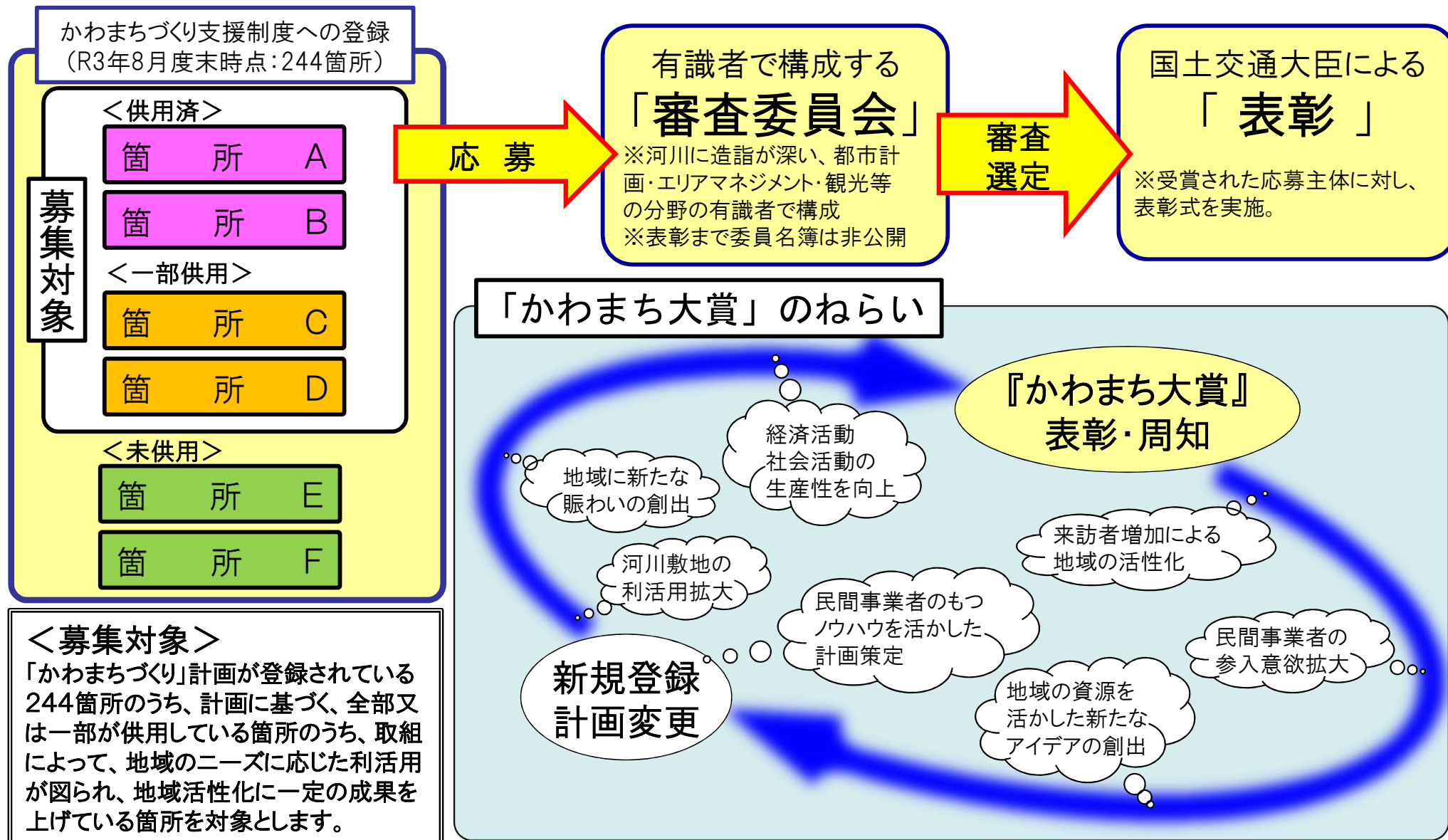
3. 審査結果

- 先進性、継続性、創意工夫、連携性、効果の5つ観点の評価をもとに、委員の総意により、「かわまち大賞」として2件が決定されました。

水系名	河川名	かわまちづくり名称	推進主体	関係自治体
名取川	名取川	閑上地区かわまちづくり	名取市水辺を活かしたまちづくり 検討会	宮城県名取市
淀川	道頓堀川	大阪市かわまちづくり	大阪市 南海電気鉄道株式会社 道頓堀川水辺空間利活用検討会	大阪府大阪市

【参考①】『かわまち大賞』の概要

- ◆ 河川空間を活用し、地域の賑わいを創出した、他の模範となる先進的な取組を国土交通大臣が表彰し、その取組を、全国に周知します。
- ◆ 取組団体を讃えるとともに、「かわまちづくり」支援制度を浸透させ、民間事業者の参入を促進し、民間事業者のもつ「ノウハウ」等を活かした質の高い「かわまちづくり」を目指します。



【参考②】かわまちづくり支援制度の概要

河口から水源地まで様々な姿を見せる河川とそれに繋がるまちを活性化するため、地域の景観、歴史、文化及び観光基盤などの「資源」や地域の創意に富んだ「知恵」を活かし、市町村、民間事業者及び地元住民と河川管理者の連携の下、河川空間とまち空間が融合した良好な空間形成を目指す。(令和3年8月時点:244地区)

ソフト施策による支援

- ・都市・地域再生等利用区域の指定等による民間事業者等のオープンカフェ等への河川空間の多様な利活用の促進
- ・優良事例に関する情報提供や必要な調査等により、計画の実現を支援

都市・地域再生等利用区域の指定の適用事例



遊歩道の民間活用
(道頓堀川/大阪市)



オープンカフェの設置
(京橋川/広島市)

先進的な取組の情報提供



民間事業者との連携
(北十間川/墨田区)



賑わい拠点の整備
(五ヶ瀬川/延岡市)

ハード施策による支援

- ・治水上及び河川利用上の安全・安心に係る河川管理用通路や親水護岸等の施設整備を通じ、まちづくりと一体となった水辺整備を支援。
(市町村、民間事業者が河川空間の利用施設を整備)



河川管理用通路の利用
(最上川/長井市)



親水護岸の利用
(新町川/徳島市)